

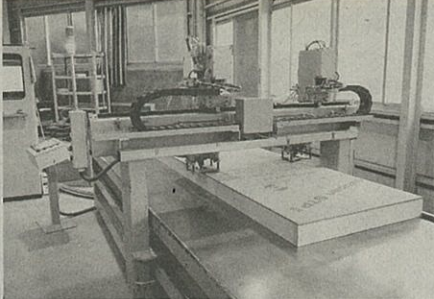
住宅用耐震パネル増産

浜松のコーチ

住宅用内壁パネルを手がけるコーチ（浜松市、大畑勝裕社長）は耐震性に優れた木材パネルを増産する。同市浜北区に約10億円を投じて新工場を建設。2016年5月から生産能力を現在の3倍にあたる月間100～120棟分に引き上げる。東日本大震災を機に耐震性の高い住宅用パネルの需要が高まっており、能力増強を機に西日本も含め全国的な需要を掘り起こす。

浜北に新工場 月産能力3倍

増産するのは同社の主力製品である住宅用木材パネル「コーチパネル」。断熱材や枠材などが一体となった構造で、縦横からの圧力に強く、建物の柱と梁（はり）の内側に設置して住宅の耐震性を高める効果を生む。静岡県農林技術研究所で耐震性の試験をし、8月に震度7の地震にも耐えられ、国土交通大臣認定を取得した。



独自開発の自動くぎ打ち機で安定した耐震性を保つ

浜松浜北IC近くの好立地



職人が手で打つことが多くくぎ打ちを自動化する機械を独自開発し、誤差のない安定した品質を売りにしている。震災以降、首都圏を中心に引き合いが増え、これまでに約2000棟の実績がある。新工場建設による増産を機に、伊藤忠建材（東京・中央）などを通じて

西日本も含めた全国の工務店へ採用を働きかけ、販売を拡大する。新工場は新東名高速道路浜松浜北インターチェンジ（IC）近くで敷地面積約5600平方メートル。パネルの製造工場（延べ床面積約1200平方メートル）と物流倉庫（約1400平方メートル）、事務所棟などで構成する。現在より2割速度を上げたくぎ打ち機を開発・導入。パネルの生産量を現在の月40棟分から3倍に拡大する。掛川工場（掛川市）にあるパネルの設計や営業業務も15人の従業員とともに新工場に移管する。新工場の本格稼働を待つ、掛川工場は廃止し、約3000平方メートルの敷地は売却する。

コーチは1937年「河内製材所」として創業。浜松市天竜区春野町の本社工場をはじめ県内に4工場を持ち、住宅用内壁パネルの製造やヤマハ発動機の船外機部品の組み立てなどを手がける。2015年3月期の売上高は約25億円。